

大津市西部地区・草津方面で宿泊研修を実施しました

2011年3月25日

今回の宿泊研修は、実施の前週の3月11日（金）に、東北地方太平洋沖地震が発生し、東日本の広域に甚大な被害がもたらされたことから、実施の適否について関係者で協議の結果、次のような考えに立ち、訪問施設等のご理解もいただいたうえで、予定どおり実施することにしました。（以下、里親学生支援室長から里親GP登録学生等へ実施前日に配信された電子メールの文面）

「里親」宿泊研修の実施について

3月11日の「東北関東大震災」のあまりにも痛ましい状況に発する言葉が見つかりません。

お亡くなりになった方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

ところで、明日からの「里親」宿泊研修についてです。

中止も検討しましたが、「里親」宿泊研修の目的が観光ではなく、地域を理解し、地域の医療の大切さを学生が理解することを目的とした研修であることを重視し、予定通り実施することといたしました。また、医師や事務職員を災害支援のために派遣し、厳しい職員体制で診療を行っている診療所からは、困難はあっても予定通り受け入れてくれる旨の申し出もありました。

大災害に見舞われている現地で、住民の命を支えるために、また、身内の死をご家族が受け入れることができるよう必死で働いている専門職集団の一つが医療職です。将来の医療の担い手である学生たちとそうした医療人の責務を学び、滋賀の医療を平時だけでなく非常時でも支えることができる医療体制について考える機会にしたいと思えます。

里親学生支援室長

埴田 和史

「大津市西部地区・草津方面の医療と歴史・文化を学ぶ」と題し、3月15日（火）～16日（水）の2日間、宿泊研修を実施しました。

バスでの出発に際し、埴田室長の発声により、震災でお亡くなりになった方々のご冥福を祈り全員で黙祷を捧げました。

1日目は、滋賀県立精神医療センター・近江草津徳洲会病院・草津総合病院を外観見学の後、世界文化遺産に登録されている比叡山延暦寺へと向かいました。

到着後は、まず阿弥陀堂へ。室員で解剖学講座准教授の相見先生から、毎年5月にこのお堂で営まれる滋賀医科大学の解剖体納骨慰霊法要の様子などの説明を受けました。また、1200年間守り継がれた「不滅の法灯」で知られる、国宝・根本中堂も拝観しました。



比叡山延暦寺 阿弥陀堂



根本中堂

昼食の後は、山道を30分程度歩き、献体いただいた方々の分骨された御遺骨が納骨されている横川の大学霊安墓地へ向かいました。ここでは参加者全員で草取り・落ち葉かき・溝掃除など清掃作業を行い、最後に黙祷を捧げて下山しました。



滋賀医科大学 霊安墓地の清掃作業

その後は2班に分かれて、坂本民主診療所とケアタウンからさきの訪問でした。

坂本民主診療所には、医学科3年の4名、看護学科2年の3名と引率の教職員3名の計10名で訪問しました。まず、併設されている介護老人保健施設・日和の里を訪問し、1階にある100円喫茶で、診療所開設30周年を記念して作成されたDVDの映像を基に、埴田施設長から、診療所の沿革や概要についてご説明いただきました。その後、出崎副施設長と福塚医学生担当のお二人に、2階と3階にある入所施設や通所リハビリエリアをご案内いただき、地域や家庭の結びつきを大切に運営されていること等についてご説明いただきました。続いて、診療所に移動し、多目的ホールや外来エリアをご案内いただき、地域の保健医療センター的な役割を果たされていることを感じました。最後に、徒歩で在宅ケアステーション・コスモスを訪れ、看護師の方々から24時間体制で在宅介護を支えておられること等について説明を受けました。いずれの施設も明るい家庭的な雰囲気、周辺住民の皆様から信頼されていることが感じ取れました。



坂本民主診療所にて

ケアタウンからさきでは、扇田在宅部長より老人介護を中心に説明いただき三大介護、介護保険などを含め、大津市にしかないサービス自助・互助・共助についてもお話いただきました。交流会第1部で講演をお願いしていた越智先生のお名前もあがり、ケアタウンからさきはとても信頼しておられるようでした。

また、石橋ケアマネージャーからは、「歳をとるということ」のお話を伺いました。

その後、扇田在宅部長に院内を案内していただき、ご自慢の檜風呂をはじめ食堂や交流スペースを見学させていただきました。

バスを待つ十数分も学生たちは、扇田在宅部長を囲み、介護などの話をしていました。



ケアタウンからさきにて

宿泊場所でもある琵琶湖グランドホテルでの交流会では、第1部として、おち医院院長の越智眞一先生に「大津地域の医療」というテーマで地域における医療活動の実情等ご講演いただきました。

まずは自己紹介として、開業されてから現在に至る診療のこと、続いて、大津市医師会の会長としてのお仕事のこと、そして大津市の地域医療として、公的病院・私立病院・開業医などそれぞれの役割や連携についてご講演いただきました。

交流会第2部では、訪問先の副院長や滋賀医大卒業の先輩方、病院関係の方、里親・プチ里親・学外室員の方々など13名の方にご参加いただき、それぞれのお立場からのご意見を伺い、学生たちも質問や自分の意見発表をするなど貴重な情報交換・交流の場となりました。

また、途中、学生の提案により、今回の大震災で亡くなられた方々へ黙祷を捧げる場面もありました。



交流会第1部にて



交流会第2部にて

2日目の最初は、時折雪の舞う中、近江八景の一つ堅田の落雁として有名な浮御堂の見学でした。湖上通船の安全を発願し建立されたそうです。

その後、ボランティアガイドの方たちの案内で、日吉・坂本地区を散策しました。全国三千余社の山王さんの総本宮・日吉大社や穴太衆積みの石垣と白壁に囲まれた延暦寺門跡寺院・滋賀院門跡など歴史と文化を感じることができました。



浮御堂



日吉大社



穴太衆積み



滋賀院門跡

午後からは、前日同様2班に分かれ、大津市民病院と大津赤十字病院を訪問しました。

大津市民病院では、片岡院長のご挨拶のあと、地域医療連携室の松井次長に院内を案内していただきました。感染症病棟では、施設はあっても利用が無い方がいいとおっしゃっておられました。またヘリポート見学は、はじめての学生もおり驚きの声が上がっていました。その後、透析室では11期生の磯野先生（血液浄化部診療部長）に透析に関する説明を受けました。また、緩和ケア病棟では、ちょうどコンサートが開かれており、患者さんたちの穏やかな顔が印象的でした。マタニティ教室の様子も見学させていただき、ご夫婦で参加されている方もおられました。最後には、辻村副院長にご挨拶いただき大津市民病院をあとにしました。



大津市民病院にて

大津赤十字病院では、廣瀬院長から、滋賀医科大学とは開学前から深い関係があること、病院には地域医療の基幹として、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、総合周産期母子医療センター、基幹災害医療センター、臨床研修指定病院等の役割を併せ持ち、殊に、今回の東北・関東地方における大震災による被災地へはいち早く医療救護班・DMATを連続して派遣されていること等についてご説明いただいた後、100周年記念DVDを視聴させていただきました。続いて、土井副院長と伊吹看護部副部長から、本学卒業後、同院に勤務している若い医師（平

成22年卒・孫 永基さん、平成21年卒・財間 千景さん)と看護師(平成21年卒・森野 有香さん)の紹介があり、各先輩から後輩達にとって、働きがいや医療について思うこと等について、ご説明いただきました。その後、2班に分かれ、岡本副院長らの案内で、救命救急センター、備蓄倉庫、NICUを見学させていただきました。いずれも県下に誇れる施設・設備との説明もあり、一同納得の内容でした。



大津赤十字病院にて

今回の研修もまた、たくさんの方々のご協力によりとても有意義で、学生達が地域の医療や今後の進路を考えるうえで貴重な体験となりました。

この場をお借りしてお忙しい中、ご協力いただきました訪問先を初めとする皆様方に、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

「里親」GP 宿泊研修日程
～大津市西部地区・草津方面の
医療と歴史・文化を学ぶ～

● 3月15日（火）1日目

滋賀医科大学（出発）〈8:50〉



草津方面病院群（巡回・外観見学）〈9:00～9:40〉

滋賀県立精神医療センター、近江草津徳洲会病院、
草津総合病院 他



大津港（休憩）〈10:10～10:30〉



比叡山延暦寺・根本中堂（見学）〈11:10～11:50〉



比叡山峰道レストラン（昼食）〈12:10～12:50〉



よかわ
横川・霊安墓地（見学）〈13:00～14:10〉



坂本民主診療所

医3・看2年生（説明・見学）〈14:40～16:10〉

ケアタウンからさき

医1・2・看1・2年生（説明・見学）

〈15:00～16:30〉



琵琶湖グランドホテル〈16:50頃到着〉

（交流会・宿泊）〈18:30～〉

夜は地元の方々・里親の先生方との意見交換、交流会

3/15（火）琵琶湖グランドホテルでの交流会日程

18:30～ 交流会〈第1部〉講演/意見交換等

19:15～ 交流会〈第2部〉懇談/会食

21:30～ 学生同士交流会（22:30頃迄）

● 3月16日（水）2日目

琵琶湖グランドホテル（出発）〈9:00〉



浮御堂（見学）〈9:15～9:40〉



日吉・坂本地区（見学）〈10:00～12:00〉

ボランティアガイドの案内による



大津港キャプテン（昼食）〈12:20～13:20〉



（2班に分かれて）

大津市民病院（説明・見学）〈14:00～15:30〉

大津赤十字病院（説明・見学）〈14:15～15:45〉



滋賀医科大学（解散）〈16:30頃〉



瀬田駅（希望者ありの場合）〈16:50頃〉

「里親」・「プチ里親」にご登録いただいている皆様方へ
滋賀県で働いておられる医師・看護師・保健師・助産師の皆様方へ

里親学生支援室では、3月15日（火）・16日（水）に**大津市西部地区・草津方面**で宿泊研修を実施します。

3月15日の夜には、里親の先生方や地域で勤務されている医師・看護師・保健師・助産師の皆様と約40名の参加学生との交流会を下記のとおり行いますので、お時間のご都合がよろしければ、是非ともご参加ください。

参加お申し込みの場合は、①第1部・第2部のいずれからご参加のご予定であるかと、②ご来場の方法とを、電話・FAX・メールで**3月1日（火）までに里親学生支援室へお知らせください。**

また、ご多忙とは存じますが、開始のそれぞれ10分ほど前までには会場にお越しくださいますよう、お願いいたします。

記

- 1、日 時 平成23年3月15日（火）
第1部 講演・意見交換
午後6時30分～午後7時15分
第2部 懇談・会食
午後7時15分～午後9時00分
- 2、会 場 琵琶湖グランドホテル
大津市雄琴6-5-1 TEL 077-579-2111
(JR湖西線「おごと温泉駅」から徒歩約20分
またはタクシー約5分)
関連URL <http://www.biwakogh.co.jp/>

【お問合せ先】

滋賀医科大学 里親学生支援室（学生課内）
TEL. 077-548-2802 FAX. 077-548-2803
E-mail : satooya@belle.shiga-med.ac.jp
<https://satooya.shiga-med.ac.jp/>

1月17日（月）、クサツエストピアホテルにおいて「里親GP」の事業の一環である「FD研修会・意見交換会」を開催しました。当日は、数日前からの厳しい冷え込みにより天候が心配される中にもかかわらず、里親・プチ里親の方々の他、医学科後援会の役員の方にもご出席をいただき、30名を超える参加者での研修・意見交換会となりました。



FD・意見交換会の様子

埜田里親学生支援室長の挨拶の後、服部副学長に「滋賀の医療の担い手育成を支援する新しいとり組みについて」というテーマで講演していただきました。

医学科入学生定員増の推移や地域枠の状況に続き、平成22年度をもって文部科学省の補助事業としては終了となる『地域「里親」による医学生支援プログラム』の成果等についてお話いただき、また、それを踏まえて今後の課題として、大学が県・市町・病院・医師会などと協力して取り組むべき事業について講演されました。

次に、埜田室長から「2010年 活動報告」として、過去一年の間に行った主な事業等について、スクリーンにスライドを映し出しながら報告がなされました。

その後は、出席者の自己紹介などを含め意見交換や懇談が行われ、予定の2時間が短く感じられる有意義な内容となりました。

参加の方々からは、事業を高く評価いただいたうえに、今後も協力は惜しまない等ありがたいお言葉も頂戴しました。

学生たちからは、「もっとたくさんの方と交流をしてお話を聞きたい」など前向きな意見を聞くことができ、また、ある学生からは、「当日の出席について里親の先生から声を掛けていただき参加を決めました」ということも聞きました。

それぞれの形で交流されていることを改めて知り、この事業の継続・発展の必要性を強く感じました。



副学長の講演



意見交換・交流会の様子



お忙しい中、ご出席いただきました皆様、ありがとうございました。

「里親」・「プチ里親」にご登録いただいている

みなさま方へ

滋賀県に勤務されている

医師・看護師・保健師・助産師のみなさま方へ

里親学生支援室では、次のとおり「里親GP」FD研修会・意見交換会を開催いたします。
お世話になっている皆さまと「里親GP」関係者との意見交換や交流を行うことにより
ます。

また、プログラム登録学生で都合のつく学生にも参加を勧め、交流の場も設けたいと考
えております。

寒さ厳しい頃とは存じますが、プログラムに対するご意見等を賜りたく、お時間のご都合
がございましたら、是非ともご出席くださいますようお願いいたします。

- 日 時 : 平成23年1月17日(月)
午後6時30分から2時間程度
- 会 場 : クサツエストピアホテル
2階 瑞祥の間 (部屋は予定)
草津市西大路町4-32
TEL. 077-566-3333
(JR草津駅「西口」から徒歩3分)
- 講 演 : 滋賀医科大学 服部 隆則 副学長
テーマ「里親支援事業を経験として
その後の学生支援を考える」(予定)
- その他 : 軽食を用意いたします。

お申込みは、12月28日(火)までに
里親学生支援室にご連絡ください。

コミュニケーションセミナー(第2回)を開催しました

2010年11月25日

11月9日(火)・12日(金)・16日(火)・18日(木)の4日間、マルチメディアセンター2階会議室において、12時20分から約30分間、昼休みを利用して、里親GP登録学生を対象に、今年度(平成22年度)第2回目のコミュニケーションセミナーを開催しました。

初めての開催であった前回6月(第1回)とは方法を変え、理論編2回と実践編2回に分け、講師を里親学生支援室員でもある、看護学科長・臨床看護学講座(精神看護学)の瀧川薫教授に担当いただき、「医学生・看護学生のコミュニケーションセミナー」と題して行いました。

セミナーの内容は5つのパートに分かれ、パート1では「コミュニケーションの前提」として、安心感と信頼感、位置関係の重要性など、パート2では「自己表現とコミュニケーション」として、自己表現の3つのタイプなど、パート3では「コミュニケーションの基礎知識」として、コミュニケーションの分類やヒューマンコミュニケーションの相互作用など、パート4では「コミュニケーション技法」として、傾聴の姿勢や質問のしかた等、基本的関わり技法など、パート5では「コーチングスキル」として、ペーシング・メッセージ・質問の種類などについて、いずれも親しみのもてるスライドを提示いただきながら、医療従事者を想定して分かりやすく説明していただきました。

学生たちが、今回のセミナーで得たことを、将来の医師・看護師等を意識しながらも、まず身近なところから役立て、里親やプチ里親の方など、目上の人や一般の地域の人たちとのコミュニケーション能力を高めるきっかけとすることを期待しています。

なお、残念なことに、今回、参加学生が少なく、講師の瀧川教授にはご迷惑をおかけしましたが、これにつきましては、今後の検討課題として、次回開催の機会に活かさせていただくこととしました。



講演される 瀧川教授



コミュニケーションセミナーの様子

学園祭で地域「里親」ブースを設けました

2010年10月26日

10月23日（土）・24日（日）に滋賀医科大学の学園祭（若鮎祭）が開催され、里親学生支援室もブースを設けました。

昨年と同様に福利棟の一角を借りて、事業のPRポスターや「里親学生支援室だより」の最新版、宿泊研修の写真・新聞掲載の記事の他、「里親GP」事業の成果と現状を踏まえての「NPO設立」計画（案）についての資料の展示を行いました。

また、FD研修会や宿泊研修における講演の様子ビデオも継続的に放映しました。

「学生支援ニュース」等の発行物も自由にお持ち帰りいただけるようにするなどして事業のPRに努めました。

今年は、本プログラムを知って来場される方もあり、また興味を持って資料を持ち帰っていただく方もあるなど地道な活動が徐々に浸透してきていることを実感しました。



地域「里親」ブースの様子

中庭のエリアでは、昨年の初回に引き続き、「東近江市」が出店、揃いの赤いハッピーを羽織って、地域医療写真展と併せてジェラートと石焼きいもの販売などにより、盛んに市をPRされていました。



「東近江市」のブース

ご来場のうえブースにお立ち寄りいただいた皆さま、ありがとうございました。

「健康教育学習会」開催中止のお知らせ(お詫び)

2010年10月13日

里親・プチ里親にご登録いただいている皆さま方へ
地域住民の皆さまへ

この度、開催を予定しておりました「健康教育学習会」(テーマ「お産と子宮がん -自分の遺伝子を安心して次世代に残すために-」、日時・会場 平成22年10月14日(木) アイリッシュパーク(高島市)・平成22年10月15日(金) 六荘公民館(長浜市))につきまして、諸般の事情により開催を中止させていただくこととなりました。

ご参加のお申し出をいただいております皆さまにおかれましては、急なお知らせとなり大変申し訳ございませんが、何とぞご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、今後とも本学の教育等に関しまして、ご協力賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

学園祭での地域「里親」ブース設置のご案内

2010年10月13日

里親学生支援室では、学園祭(若鮎祭<http://www.shiga-med.ac.jp/~wakaayu/>)期間中に地域「里親」ブースを次のとおり設け、事業の紹介や研修内容等がご覧いただけるビデオの放映・写真の展示などを行います。

お時間のご都合がございましたら、是非お越しく下さい。

ブース開設時間

日時 : 平成22年10月23日(土)
12:00~17:00
10月24日(日)
10:00~16:00

場所 : 滋賀医科大学 福利棟 1 F

詳細→ [annai.pdf](#)

県民公開講座の様子が新聞に掲載されました

2010年10月5日

9月26日(日)にホテルピアザびわ湖(大津市)で「滋賀の医療と医師・看護師養成を考える」をテーマとして開催した県民公開講座(「里親GP」シンポジウム)の様子が朝日新聞に掲載されました。

学長のお話しや出席いただいた方々からのご意見が掲載されています。

2010年9月27日(月)朝日新聞掲載

1. 日 時 : 平成22年9月26日(日)
13時30分～16時00分
2. 会 場 : ホテルピアザびわ湖
6階クリスタルルーム
(大津市におの浜1-1-20,
TEL 077-527-6333)
3. テーマ :
「滋賀の医療と医師・看護師養成を考える」

里親学生支援室では、『地域「里親」による医学生支援プログラム』事業のシンポジウムとして、大学を主催に県民公開講座を開催しました。

学長の挨拶、埤田室長による事業報告の後、各方面からお招きしたシンポジストの方々に、短い時間ではありましたがそれぞれのお立場からテーマに沿った形で、現状の報告や今後の方向性などについてスライドを交えてご講演いただきました。



学長のあいさつ

医師会副会長の小鳥輝男先生からは、前東近江市医師会会長としてご尽力された東近江市病院等整備計画や、三方よし研究会などの活動を中心にお話いただきました。

病院協会会長の富永芳徳先生からは、深刻な県内の医師・看護師不足の実情を、具体的に表やグラフを使ってご説明いただき、今後の医師等確保への対策などについてお話いただきました。



小鳥先生の講演



富永先生の講演

看護協会の中西京子先生からは、看護師の実情と看護職が生涯を通して働き続けられるための環境作りの大切さなどについてお話いただきました。

長浜保健所所長の嶋村清志先生からは、医療・福祉は地域を診る・知ることから始まる、そのためには地域の生活を住民から学ぶことが大切であることを知らなければならない、と話され、地道な活動の様子を中心に講演いただきました。



中西先生の講演



嶋村先生の講演

最後に服部副学長からは、医学科入学定員増の推移や地域卒の状況に続き、「里親G P」事業の成果と現状を踏まえての今後の課題やNPO設立を計画していること等について講演されました。

また、シンポジストの皆さま方からは、「里親G P」に対して、今後の期待も込めて高い評価をいただきました。



服部副学長の講演



聴講の様子

休憩後には、プチ里親の方などから患者・一般市民としての立場からご意見・ご希望を話していただいたり、大学から提示のあったNPO設立の計画について、実際にNPOの運営に携わっておられる方から今後の参考となるような貴重なご意見をいただくなど、活発な意見交換が行われました。



意見交換の様子



行政、医療関係、里親・プチ里親、各種団体の方など、約60名のご参加をいただき、大変有意義な公開講座となりました。

里親・プチ里親にご登録いただいている皆さま方へ
地域住民の皆さまへ

滋賀医科大学では、地域住民の皆さま一人ひとりが、健康で長生きできるよう、また、安心して暮らせるよう、身近な健康管理や医療の現状等について知識を深めていただくため『地域「里親」による医学生支援プログラム』（略称「里親GP」）事業の一環として、「健康教育学習会」を下記のとおり2会場で開催いたします。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

記

○テーマ : 「お産と子宮がん
-自分の遺伝子を安心して次世代に残すために-

○講師 : 滋賀医科大学 地域周産期医療学講座
高橋 健太郎 教授

○日時・会場 :

第1回【高島会場】

日時：平成22年10月14日（木）
午後2時～3時30分（質疑応答を含む）
会場：アイリッシュパーク
高島市勝野670
（高島市役所高島支所近く）

TEL 0740-36-0219

第2回【長浜会場】

日時：平成22年10月15日（金）
午後2時～3時30分（質疑応答を含む）
会場：六荘公民館
長浜市勝町490
（市立長浜病院近く）

TEL 0749-62-0198

○募集定員 : 各回50名
（定員になり次第締め切ります）

○参加料 無料

○申込方法 電話・ファックス・メール・はがきで
氏名・性別・年齢・住所・電話番号
・参加会場を連絡

○申し込み先・問い合わせ先

滋賀医科大学 里親学生支援室

TEL : 077-548-2802

FAX : 077-548-2803

メール : satooya@belle.shiga-med.ac.jp

URL : <https://satooya.shiga-med.ac.jp/>

※受講される皆さまの個人情報は、学習会の運営及び連絡に限り使用し、それ以外の目的には使用いたしません。

会場はこちら

高島会場→ [takashima.pdf](#)

長浜会場→ [nagahama.pdf](#)

滋賀医科大学 県民公開講座のご案内

2010年9月16日

里親学生支援室では、『地域「里親」による医学生支援プログラム』事業のシンポジウムとして、滋賀医科大学を主催に下記のとおり県民公開講座を開催いたします。

参加ご希望の方は、下記までメール・電話・FAXのいずれかの方法でお申し込みください。

記

1. 日 時 : 平成22年9月26日(日)
13時30分～16時00分
2. 会 場 : ホテルピアザびわ湖 6階クリスタルルーム
(大津市におの浜1-1-20,
Tel 077-527-6333)
3. テーマ : 「滋賀の医療と医師・看護師養成を考える」
4. シンポジスト : 滋賀県長浜保健所
所長 嶋村 清志 先生
滋賀県医師会
副会長 小鳥 輝男 先生
滋賀県病院協会
会長 富永 芳徳 先生
滋賀県看護協会
中西 京子 先生
滋賀医科大学
副学長 服部 隆則

【参加申込先】

宿泊研修での往診同行の様子が新聞に掲載されました

2010年9月14日

「彦根・米原・伊吹山方面の医療と歴史・文化を学ぶ」と題し、8月26日（木）～27日（金）の2日間、宿泊研修を実施しました。その中の訪問先の一つである地域包括ケアセンターいぶきでは、医学科3年生の松本有美さんが、往診に同行させていただけることになりました。センター長の畑野先生のご厚意により、往診先の患者さんの血圧測定や触診を体験させていただくことができ、松本さんはすごくいい経験になったと喜んでいました。その時の様子が中日新聞に掲載されました。

松本有美さん感想文（抜粋）

……。患者さんのほうがよく診察方法を知っておられて、最後には「頑張って良いお医者さんになって下さい」という激励までいただいて、身の引き締まる思いがしました。往診からの帰路、畑野先生は道ばたで会った人から必ず声をかけられ、畑野先生自身もその方の生活を把握した上で声をかけかえす、という光景を何度も目にしました。私は、どちらかという家庭医や総合診療内科など、地域に密着してその地に根差した医療をするような医療を理想としているのですが、畑野先生はまさにその医療を実践されていて、私の理想とする医師像を体現されている素晴らしい先生だと思いました。……

中日新聞びわこ版 2010年8月27日掲載

彦根・米原・伊吹山方面で宿泊研修を実施しました

2010年9月13日

「彦根・米原・伊吹山方面の医療と歴史・文化を学ぶ」と題し、8月26日(木)～27日(金)の2日間、宿泊研修を実施しました。8月下旬にも関わらず、大変な猛暑の中、学生・教職員合せて55名という過去最多の大人数での研修となりました。

1日目は、滋賀県で一番高い(標高1377m)伊吹山に登りました。珍しい高山植物や周りの景色に目をやりながら遊歩道を歩くこと約40分。山頂からみる大パノラマは格別でした。



午後一番は、地域包括ケアセンターいぶきでお世話になりました。まず、同センターに隣接する伊吹薬草の里文化センターへ出向いて来ていただき、臼井先生から沖縄・座間見島での離島医療を中心に地域医療について、ランチョンセミナー形式でお話を聞かせていただきました。

沖縄の楽器・三線で演奏も披露いただき、沖縄ムードに包まれたひと時でした。その後、ケアセンターへ徒歩で移動して、畑野センター長らのご案内による施設見学となりました。



臼井先生のお話



地域包括ケアセンター見学

ゆったりとした施設内には、患者さんらが和やかな気分になれるよう、畑野先生撮影の花の写真などがいたるところに飾られていました。医学科3年の学生1名は畑野先生の往診にも同行させていただき、患者さんから教えられることがあり、また、先生からは地域に密着してその地に根差した医療を実践されていて素晴らしいと思った、との感想がありました。

次に、湖東医療圏の急性期医療を担う中心的な病院である彦根市立病院を訪問しました。赤松院長はじめ多数の関係の方々にご列席いただき、矢野副院長の総合司会により、院長から病院概要のご説明の後、救急センター所長の金子先生から「救急医療」のお話、広報委員会委員長の綿貫循環器科部長から「彦根市立病院ふれあいまつり」等のお話をそれぞれ伺い、地域や地域住民への熱心な働きかけを感じました。また、参加学生全員に将来の希望等について発言の機会をいただき、小児科医、産婦人科医、救急看護師等の他、滋賀県の医療に貢献したい等、各自思っているところを述べました。



その後、院長はじめ多数の方々のご案内により5班に分かれて院内を見学させていただきました。最後には、屋上階のヘリポートへ特別に案内いただき記念撮影までしていただきました。



宿泊場所でもある彦根ビューホテルでの交流会の第1部では、地域包括ケアセンターいぶきのセンター長である畑野先生に、日頃実践されている地域包括ケアについて、患者さんとのふれあいや伊吹山の写真等も織り交ぜ、分かり易くご講演いただきました。



会場を隣に移しての第2部は、学外から彦根市の松田副市長にもご参加いただき、また訪問先の病院長や副院長・病院関係の方々、行政の方、里親・プチ里親の方々など総勢20名の方にご参加いただき大変賑やかな交流会となりました。



松田彦根副市長

ご参加の皆様方からは、各々の立場等での地域の医療についての考えや思い等についてメッセージをいただき、貴重な意見(情報)交換、懇談の場となりました。また、彦根市のご厚意により、近年のゆるキャラブームの火付け役となったマスコットキャラクター“ひこにゃん”がサプライズとして登場すると、会場は一層盛り上がり、結果、ステージでの記念撮影となりました。“ひこにゃん”の参加にも、ご配慮ご尽力いただきました、彦根市の皆様方ありがとうございました



ひこにゃん登場



第2部終了後、学生たちは、学生同士交流会で引き続き親睦を深めました。

2日目の最初は、国宝・彦根城でした。3名のボランティアガイドの方々の案内で、天守閣にも上り、眼下や周辺の景色を楽しんだ後、城山のふもとにある玄宮園を周遊しました。ガイドさんの説明も効果的で、江戸の時代に想いをはせ、歴史の重みを感じました。その後、夢京橋キャッスルロードで短いフリータイムの後、再び、バスに乗り込みました。



彦根城と玄宮園

午後は、友仁山崎病院を訪問しました。人間ドック専用の階にあるラウンジに案内いただき、山本病院長から病院の概要として、理念や時代と地域の要請を受け入れ医療を提供されておられること等についてお話の後、7期生の林先生・9期生の作本先生からは各々の立場から先輩としてのお話を、浜副看護部長からは橋本看護部長からのメッセージを代読いただき、最後にモニターの映像で病院紹介をしていただきました。



友仁山崎病院でのお話

研修最後の訪問先は、精神科医療でも歴史のある豊郷病院でした。佐藤院長はじめ多数のご列席の方々のご紹介の後、佐藤院長から病院の沿革や概要、友吉名誉院長(本学名誉教授)から病院の創設(創立)等歴史、9期生の成田精神科部長から精神科医療の取り組み等について、それぞれご説明いただきました。その後、3班に分かれ、カ石看護部長らの案内で、一般病棟とは違った工夫等を施した精神科病棟等を見学させていただきました。



豊郷病院での見学

精神科病棟

2日間ともとても暑い中での研修でしたが、訪問させていただいた医療機関では、それぞれの理念に基づく特長を生かした患者さんに対する熱い想いがひしひしと伝わってくる、そんな研修となりました。学生達もまた 新たな思いや考えを抱き 大切なものが一つ増えたと思います。

今回の研修におきまして、お忙しい中貴重なお時間を割いてご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。

なお、地域包括ケアセンターいぶきでは中日新聞の同行取材がありました。

「里親」GP宿泊研修日程

～滋賀県彦根・米原・伊吹山方面の
医療と歴史・文化を学ぶ～

● 8月26日（木）1日目

滋賀医科大学（出発）〈8:30〉

↓

伊吹山（散策）〈10:30～11:40〉

【※荒天時：醒ヶ井養鱒場・地蔵川（梅花藻）】

↓

伊吹薬草の里文化センター（昼食）〈12:15～13:30〉

↓

地域包括ケアセンターいぶき

1・2・3年生（説明・見学）〈13:30～14:20〉

3年生一部（説明・見学・往診同行）〈13:30～?〉

↓

彦根市立病院（説明・見学）〈15:15～16:45〉

↓

彦根ビューホテル 〈17:05頃到着〉

（交流会・宿泊）〈18:15～〉

夜は地元の方々・里親の先生方との
意見交換、交流会

8/26（木）彦根ビューホテルでの交流会日程

18:15～ 交流会〈第1部〉講演/意見交換等

19:15～ 交流会〈第2部〉懇談/会食

21:30～ 学生同士交流会（22:30頃迄）

● 8月27日（金）2日目

彦根ビューホテル（出発）〈9:00〉

↓

彦根城・玄宮園・夢京橋キャッスルロード

（見学）〈9:15～11:30〉・・・

ボランティアガイドの案内による

↓

ゆめ風船（昼食）〈11:40～12:40〉

↓

友仁山崎病院（説明・見学）〈13:00～14:00〉

↓

豊郷病院（説明・見学）〈14:30～15:30〉

↓

滋賀医科大学（解散）〈16:45頃〉

↓

瀬田駅（希望者ありの場合）

宿泊研修における交流会への参加ご案内

2010年8月16日

「里親」・「プチ里親」にご登録いただいている皆様方へ
滋賀県で働いておられる医師・看護師・保健師・助産師の皆様方へ

里親学生支援室では、8月26日（木）・27日（金）に彦根・米原・伊吹山方面で宿泊研修を実施します。

8月26日の夜には、里親の先生方や地域で勤務されている医師・看護師・保健師・助産師の皆様と約50名の参加学生との交流会を下記のとおり行いますので、お時間のご都合がよろしければ、是非ともご参加ください。

なお、参加お申し込みの場合は、①第1部・第2部のいずれからご出席のご予定であるかと、ご来場方法を、電話・FAX・メールで8月19日（木）までに里親学生支援室へお知らせください。②また、いずれの場合につきましても、開始の10分前までには会場にお越しください。

記

- 1、日時 平成22年8月26日（木）
第1部 講演・意見交換
午後6時15分～午後7時00分
第2部 会食・懇談
午後7時15分～午後8時45分
- 2、会場 彦根ビューホテル
彦根市松原町網代口1435-91
(JR・近江鉄道 彦根駅から車で約7分)
TEL0749-26-1111
関連URL<http://hikone.in/index.html>

【お問合せ先】

滋賀医科大学 里親学生支援室
TEL.077-548-2802 FAX.077-548-2803
E-mail:satooya@belle.shiga-med.ac.jp
<https://satooya.shiga-med.ac.jp/>

広報「ひがしおうみ」に関連記事が掲載されました

2010年8月4日

里親学生支援室では、7月22日（木）に現・滋賀県医師会副会長（前・東近江医師会会長）小鳥 輝男先生を講師にお招きして「東近江地域での地域医療再生の取り組み」と題してFD研修会を開催いたしました。

このことに関連して、このたび、東近江市から、研修会において小鳥先生からもお話いただきました、東近江市病院等整備計画などを特集「今、始まる東近江市地域医療改革プロジェクト」として掲載した広報誌をお送りいただきました。

小鳥先生や、関係の方々のお話など東近江市の着実な取り組みの様子が掲載されています。東近江市の了解を得て掲載させていただきました。

特集

今、始まる

東近江市地域医療改革プロジェクト



誰もが安心して、明日に希望を持って暮らせることは、市民のみなさんの願いです。しかし、地域医療は医師不足をはじめとした危機的な状況になっています。

この危機を乗り越え、地域医療を守るため、「東近江市病院等整備計画」に基づき、本市は一歩ずつ着実に、医療提供体制の確立を進めていきます。



医療関係者の声
Voice 01

かしわぎあつり
柏木厚典さん(滋賀医科大学附属病院 病院長)

本学に設立された寄附講座(総合内科学・総合外科学講座)のスタッフ14人を新たに国立病院機構滋賀病院に設立される東近江市総合医療センターへ派遣します。

これは全国でもめずらしい画期的な試みであり、中核病院内に医師臨床研修の活動拠点を設け、総合的医師研修病院として持続的な医師確保を図ります。

中核病院には総合内科・総合外科を一体化して、幅広い病気の診療にあたりるとともに、二次救急を積極的に受け入れ、総合診療の研修を希望する若い研修医師が充実した臨床研修を積みうるマグネットホスピタルをめざします。さらに、圏域内および東近江市内の病院・診療所と連携して、地域住民のみなさんの安心・安全のまちづくりに積極的に貢献していきます。

いのうえしゅうへい
井上修平さん(独立行政法人国立病院機構滋賀病院 院長)

当院は中核病院として本格稼動することになりました。この計画の実行には、建物や医療機器の整備、経営や職員確保など難関も多くあります。市民のみなさんに支えていただきながら、中核病院を整備する責任者として、魅力ある病院づくりに全力で取り組みます。



医療崩壊は、「しくみ」が原因。
新しい「しくみ」づくりで、
解決の糸口を見いだせる。

本市には、能登川病院、蒲生病院の2つの市立病院と、国立病院機構滋賀病院の3つの公立病院があります。
しかし、新医師臨床研修制度が引き金になって医師数が減少し、救急の受け入れ体制や、小児科、整形外科、外科などの診療体制が弱体化し、本市の医

療は危機的な状況になっていいます。
こうした現状を打開するため、平成21年度から「東近江市立病院等整備委員会」において、課題の克服と市民が安心できる医療体制を再構築するための方策について、議論をしていただきました。

同委員会からの提言を受けて作成した「東近江市病院等整備計画」は、本市および東近江医療圏域内で地域住民が安心して医療を受けることができるよう、滋賀病院や2つの市立病院のめざすべき姿を明らかにした

安心できる医療体制は、みんなの願い。
公立病院の将来像が、
具体的に現えてきた。

ものです。

具体的には、「寄附講座」と「病院の再編成」をキーワードに、市全体の医療提供体制を築くことで、市民のみなさんに安全と安心を提供し、信頼される地域医療を確立します。



- ① 優しい眼差しで診察にあたる(能登川病院)
- ② 看護師の打ち合わせは重要(国立滋賀病院)
- ③ 万全の体制で検査を行う(蒲生病院)

医療関係者の声 Voice02

かくのふみひこ
角野文彦さん(滋賀県健康推進課 課長)



東近江圏域が地域医療再生基金*3の対象地域に選定されました。将来、市民のみなさんに「ここに生まれてよかった、住んでよかった」と思ってもらえると確信しています。県としても、しっかりとした取り組みをしていきたいと思えます。

おどりてるお
小鳥輝男さん(滋賀県医師会 副会長)



難しい地域医療問題の解決に向けて、何年も話し合ってきました。何よりも西澤市長と滋賀医科大学の情熱を感じました。さまざまな困難を乗り越えて市の総合医療センターが設立されることを心から祈ります。

ちゅうかくびょういん
*1 中核病院 (仮称:東近江市総合医療センター)

かかりつけ医では行うことが難しい専門的な検査や治療など、市内・圏域内のほかの医療機関ではできない機能をもつことで、地域の医療連携の中核を担います。

きふこうざ
*2 寄附講座

通常は、資金を提供して医科大学内に講座を開設し、そこで得た成果を資金提供元に返します。しかし今回は、中核病院内に講座を開設するという、いわば滋賀医科大学の「総合内科」と「総合外科」の分校をつくるというめざらしい手法です。6月18日には、滋賀医科大学、滋賀県、独立行政法人国立病院機構、東近江市との間で、寄附講座の設置に関する協定を結びました。寄附講座は、今年度秋ごろに開設される予定です。



*3 地域医療再生基金

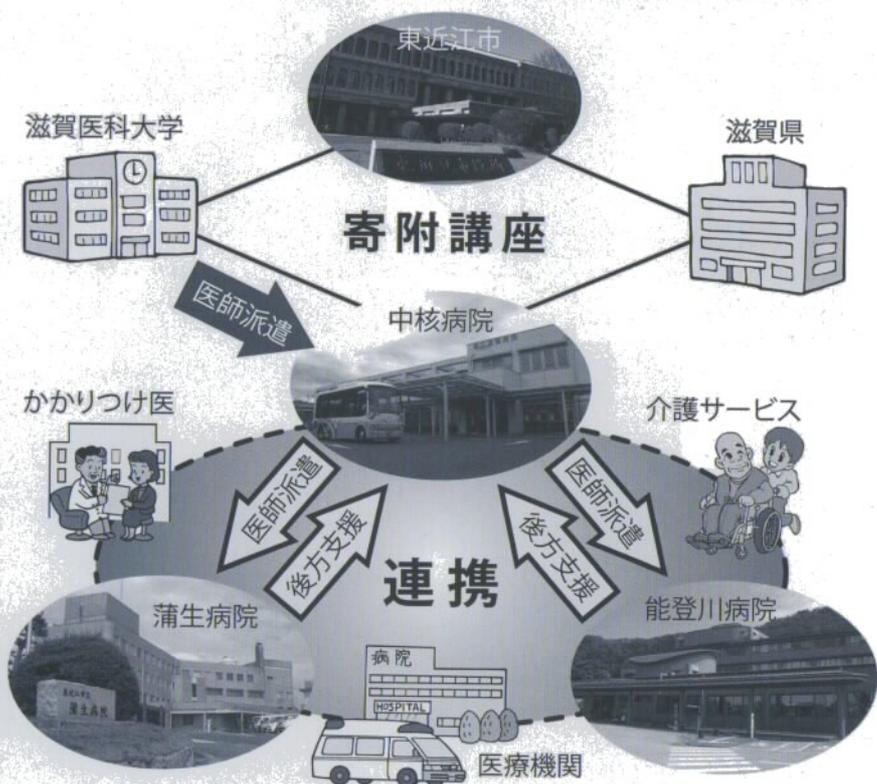
厚生労働省の地域医療の再生に向けた総合的な対策として、都道府県が「地域医療再生計画」を策定し、その内容に沿った事業を支援する基金です。今回、滋賀県に交付される50億円のうち、東近江医療圏域に18.4億円が使われることになりました。

キーワード1「寄附講座」
医師は、待っていても来ない。
寄附講座を中核病院内に開設し、
医師確保のしくみをつくる。

現状のままでは、減ることはあっても増える見込みのない、医師不足の問題。本計画では、地域医療を担う総合医を育成するため、滋賀病院に整備する中核病院*1内に、滋賀医科大学の寄附講座*2を設け、内科系の医師9人、外科系の医師5人を派遣し、総合内科学講座、総合外科学講座を開設します。自治体

が医科大学内に寄附講座を開設することはよくありますが、中核病院内に開設することは全国でもめざらしい事例です。
寄附講座には、大学の教授クラスの医師が教官として常勤します。研修医師の指導とともに市民のみなさんに安定的な医療をより一層提供することが可能になります。

再編成のイメージ



医療関係者の声
Voice 03

なかむら きくお
中村喜久生さん (東近江医師会会長)



滋賀医科大学の全面的な協力が確約されたことで、医師不足から始まった医療崩壊を解消できる道すじが見えてきました。東近江医師会も、地域のかかりつけ医として、病院と診療所との連携を密にし、救急医療体制や在宅医療などの充実に協力していきます。

かかりつけ医として、病院と診療所との連携を密にし、救急医療体制や在宅医療などの充実に協力していきます。

***4 地域連携クリティカルパス**

患者さんと医療・福祉などの関係者が連携し、理解を深めながら、在宅での生活までの道すじをつけるものです。

例えば、救急車で運びこまれた患者さんは、急性期の治療を行います。その後、早く家に帰れるように、リハビリに特化した病院へ転院します。そして最終的に、在宅介護サービスなども活用しながら、普段の暮らしに戻れるようにします。

この中核病院は、急性期医療を中心に提供し、特に現在、本市で不足している救急の分野を充実させるとともに、小児科、産婦人科、整形外科などをはじめ下表のような幅広い疾患に対応が可能な体制をつくります。

また、今回の病院再編成をきっかけに、下図のようにそれぞれの医療機関の長所を最大限に生かした医療連携体制をつくります。このことによって、全国的にも評価の高い、医療と福祉が連携した東近江医療圏域の「地域連携クリティカルパス*4」がより一層充実し、在宅の生活まで切れ目のない最良な医療福祉を提供します。

キーワード2「病院の再編成」
病院を再編成し、長所を生かす。

医療・福祉の連携体制により、在宅生活までの道すじをつける。

滋賀病院、能登川病院、蒲生病院の3つの病院を再編成し、滋賀病院内に東近江市の中核病院を整備します。滋賀医科大学の支援により今年度から医療体制の充実を図り、平成25年度には320床の新病院の開設をめざします。

能登川病院および蒲生病院は、中核病院をはじめとした急性期医療機関を後方支援する医療機関として整備します。

3 公立病院

病院	診療科目 ※印は新たに設置する診療科目	
中核病院 320床	総合内科・神経内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・小児科・外科・整形外科・脳神経外科・呼吸器外科・心臓血管外科・泌尿器科・眼科・耳鼻いんこう科・放射線科・リハビリテーション科・歯科 口腔外科・血液内科※・産婦人科※・精神科※	
市立病院	能登川病院 60床	総合内科・外科・整形外科・肛門外科・小児科・眼科・耳鼻いんこう科・リハビリテーション科・皮膚科
	蒲生病院 60床 または0床	総合内科・外科・整形外科・脳神経外科・小児科・眼科・耳鼻いんこう科・リハビリテーション科・放射線科

プロジェクトを進めると、「五方よし」が実現できる。

地域医療を支えるものは、市民の意識。

この医療改革プロジェクトによって、次の「五方よし」が実現できると考えています。

- ① 市民よし 医師不足解消により、安心して医療が受けられる。
- ② 滋賀医科大学よし 寄附講座の開設で、研修医を派遣する拠点病院が確保できる。
- ③ 国立病院機構よし 滋賀医科大学からの医師を確保できる。
- ④ 滋賀県よし 滋賀医科大学を卒業した医師の県内確保に向けた具体策が見える。
- ⑤ 東近江市よし 近江八幡市立

総合医療センターとともに、東近江圏域内での地域医療の責任が果たせる。

地域の医療を守るため、本市はこの計画を全力で推進していきます。そして、まちの医療を支えるのは市民一人ひとりの意識です。計画の実現に向けて、市民のみなさんのご協力をお願いします。

関地域医療政策課・病院管理課
☎ 0748-2415685
IP 0501580115685

FD研修会を開催しました

2010年7月27日

日 時：平成22年7月22日（木）
午後5時30分～午後7時00分
講 師：医療法人社団 小串医院
理事長 小鳥 輝男（おどり てるお）先生
テーマ：「東近江地域での地域医療再生の取り組み」
会 場：看護第1講義室（看護学科棟1階）

前東近江医師会会長として、地域医療の再生にむけて東近江市の地域医療体制検討会の議論をリードし、地域の医療や福祉の関係者と市民が参加した「三方よし研究会」を組織され、患者を中心にした医療と福祉の連携を追求されてこられた、小鳥輝男先生（現滋賀県医師会副会長）を講師としてお招きし、里親学生支援室と地域周産期医療学講座との共催で、学内教職員を基本の対象として行いました。

小鳥先生から、東近江市内にある国公立病院の機能を再編し、滋賀病院を本学も参画する市域の中核病院（（仮称）東近江総合医療センター）として位置づけ、二つの市立病院は後方支援施設の役割を担うとする等の東近江市病院等整備計画の概要や「三方よし研究会」の活発な活動を通じての地域連携完結型医療や地域医療とは医療をとおしての地域づくり（町づくり）であること等についてご講演をいただき、その後、質疑応答を含めた活発な意見交換が行われました。

今回の参加者は約40名でしたが、学内からは学長と病院長にもご出席いただき、また、学外からは滋賀県や東近江市の関連部署にお勤めの里親、プチ里親の方々のほか、里親学生支援室の学外室員や後援会の役員の方等、多方面から多数ご参加いただき、参考となる様々な情報等を頂戴しました。

ご多忙の中、多数ご参加いただきまして、ありがとうございました。



講演される小鳥先生



研修会の様子



質疑応答の様様

7月6日(火)里親学生支援室に、「里親GP」学生支援ニュース(※)送付に対してのお礼状が届きました。

しゃくなげ会会員の菊地美英子様からのお手紙で、「里親GP」学生支援ニュースをご覧になってのお気持ちを伝えていただきました。菊地様のご了解をいただきましたので、下記に掲載させていただきます。

このようなお手紙をいただけたことを関係者一同大変喜んでおり、今後、事業を行っていくうえで大変な励みになりました。

菊地様、ご丁寧にありがとうございました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

※「里親GP」学生支援ニュースは、本事業の広報誌として里親学生支援室が年2回発行し、里親・プチ里親・医学科後援会・看護学科後援会・しゃくなげ会の会員の皆様ほか、県内の病院・診療所・保健所・市役所など日ごろお世話になっている方々に送付しているもので、今回第4号は、平成22年2月の交流会や3月の甲賀地域での宿泊研修の様子を掲載しています。

梅雨明けが待たれる今日この頃となりましたが
皆様におかれましては、お持ちご清祥のこととお喜び申し上げます。
先日「里親支援ニュース」をお送り下さりありがとうございます。
学生さん達が地元の病院に行かれ研修される様子が
よく分かり、又滋賀医大がこのような取り組みをされている事を
初めて知りました。「医者と患者が会話を通じて相互理解
が可能になる事で患者の心や体の痛みに加え自分
が未経験のことまでも察知出来る医療従事者を
目指す事が大事だ」と聖路加の日野原先生は
おっしゃっています。一人でも多くの学生さんがこのような
医療従事者として活躍出来る事を願っております。
これから暑さは本格化しそうです。
ご自愛のほどお祈り申し上げますと共に
とり急ぎお礼申し上げます。

平成22年 6月30日

菊地美英子 

MIDORI



コミュニケーションセミナーを開催しました

2010年6月30日

6月29日（火）の昼休み、里親GP参加学生を対象にCMCホールで、コミュニケーションセミナーを開催しました。

里親学生支援室員でもある医療文化学講座（行動科学）・石川ひろの准教授によるセミナーで「人の話を聴くスキル」と題して、高コンテクスト-低コンテクスト・コミュニケーションを意識して使い分けること・聴くことの重要性・解読・記号化などに関して、例をあげながら分かりやすく説明を受けました。

里親GPの事業としては今回は初めての試みで、里親の先生やプチ里親の方々、訪問先の地域の方々とコミュニケーションの取り方を、もう一度再認識して今まで以上のコミュニケーションが図れるようにということから企画しました。1回だけにとどまらず今後も回を重ねて開催していければと考えています。



新入生と里親学生支援室員との懇談会を開催しました

2010年6月23日

6月16日（水）の昼休み、「『里親』プログラム」に新たに参加した第1学年の学生16名（新規23名のうち）と学内室員との懇談会を、CMC（クリエイティブモチベーションセンター）ホールで開催しました。

室員の紹介の後、学生からプログラムに参加したきっかけや出身地、滋賀県に対するイメージ等について自己紹介を行いました。

また、埴田室長からは、事業の趣旨説明に加え、『里親』の先生とのマッチング方法・交流について、今年度実施予定の室員の石川准教授による「コミュニケーションセミナー」・地域医療に関する「FD研修会」・彦根・米原・伊吹山方面での「宿泊研修」等の案内がなされました。

このプログラムを新聞報道等で知って入学したという学生もおり、地道な活動が広がりつつあることを確信しました。



平成21年4月1日	里親学生支援室（継続設置）における新年度業務を開始 広報誌 里親GP「学生支援ニュース」第2号 発行
平成21年4月2日	里親学生支援室会議開催
平成21年4月9日 ～5月上旬	1年生に対し、新入生オリエンテーションや医学概論Ⅰ などの時間を利用してプロジェクトの説明 (2年生からも呼びかけ) パンフレットを配付し参加学生を募集
平成21年4月9日 ・13日	里親学生支援室員と既登録学生（2年生）との 懇談を実施
平成21年5月13日 ～下旬	里親学生支援室員と参加希望学生（1年生）との 懇談を実施 支援対象学生の確定・支援内容の具体的説明・学生の 属性や希望事項等の調査
平成21年6月10日	里親学生支援室会議開催
平成21年6月16日	里親バンク登録の「里親」と参加学生とのマッチング 決定（年度初回）
平成21年6月22日	FD研修会「地域医療の現状について -滋賀病院及び 周辺の医療環境をとおして-」を地域医療システム学 講座との共催で開催 参加者数 72名
平成21年7月6日	里親学生支援室員と登録学生で夏期宿泊研修についての 懇談を実施
平成21年8月～9月	早期体験学習を利用して里親の下での体験学習を 希望する学生の支援
平成21年9月3日 ～4日	夏期宿泊研修「湖東地域の医療と歴史・文化を学ぶ」 を実施 参加者数 学生35名・教職員12名
平成21年9月30日	里親学生支援室会議開催
平成21年10月22日 ・29日	健康教育学習会開催 甲賀市（22日）・今津市（29日） 「ころばぬ先のつえ -滋賀の医療とつえの話-」 参加者総数 12名
平成21年10月24日 ～25日	若鮎祭（学園祭）開催時に「里親学生支援室ブース」 を開設 「里親」「プチ里親」に大学の現状を報告・学生との 交流を推進 訪問者約20名
平成21年12月1日	広報誌 里親GP「学生支援ニュース」第3号 発行
平成22年1月22日	里親学生支援室会議開催
平成22年1月29日	産業医科大学医学部 学生支援GPフォーラム 「医科大学における学生支援について」において講演
平成22年2月1日	日本学生支援機構主催の『平成21年度「新たな社会的 ニーズに対応した学生支援プログラム」・「大学教育・ 学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）」 意見交換会』において事例紹介
平成22年2月4日	里親・プチ里親対象の「FD研修会・意見交換会」開催 クサツエストピアホテル 参加者数 32名
平成22年3月8日 ～9日	宿泊研修「甲賀地域の医療と歴史・文化を学ぶ」を実施 参加者数 学生31名・教職員12名
平成22年2月～3月	過去3年度の取り組みを踏まえて次年度事業を計画

- 4月～3月 里親学生支援室において本取組の実務を行う。
- 4月～5月 新生生に対して、参加登録の募集を行う。
- 5月 参加登録希望学生の属性や希望事項等の調査を行う。
- 6月 広報誌（第4号）を発行する。
- 6月 学生と「里親」をマッチングさせる。
- 6月 学生を対象に、コミュニケーションに関する研修会（第1回）を開催する。
- 7月 地域周産期医療学講座と協同して教職員向けのFD研修会を開催する。
- 8月 県内出身自治医大同窓会主催のワークショップに参加する。
- 8月～9月 診療見学や体験学習を希望する学生（特に3年生）に対する支援を行う。
- 8(9)月 学生と里親学生支援室員とで、夏期宿泊研修を実施する。
- 9月 本取組についてのフォーラムを開催する。
- 9月～10月 学生に「プチ里親」等地域住民の方々との季節的な交流をコーディネートする。
- 10月 地域住民の方々を対象とする市民公開講座を開催する。
- 10月 学生を対象に、コミュニケーションに関する研修会（第2回）を開催する。
- 10月 若鮎祭（学園祭）開催時に「里親学生支援室ブース」を開設し、取組事業のPRを行う。
里親、プチ里親と学生との交流の機会ともする。
- 11月 里親学生支援室員と学生との懇談会を行う。
- 11月 広報誌（第5号）を発行する。
- 12月 学生に対し、地域周産期医療学講座と協力して特別講義を実施する。
- 1(2)月 「里親」「プチ里親」向けのFD研修会・意見交換会を開催する。
- 3月 学生と里親学生支援室員とで、宿泊研修を実施する。
- 3月 本事業の過去4年間の整理・検討・総括を行う。

「里親GP」の取り組みが、新聞に掲載されました

2010年4月15日

医師不足の中、本学を卒業して地域で働く先輩医師が「里親」となって、地域医療の担い手となる意識を高めようとする取組「里親GP」の事業が紹介されました。

学生へのインタビューや宿泊研修の様子が掲載されています。

中日新聞 平成22年3月30日（火）掲載